各　位

2021 年8月 30 日
株式会社 山と溪谷社
https://www.yamakei.co.jp/

# “働かないアリ”が社会の存続に必要な理由。
# 今の時代に１番読みたい科学書が復刊！

インプレスグループで山岳・自然分野のメディア事業を手がける株式会社山と溪谷社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：二宮宏文）は、ヤマケイ文庫『働かないアリに意義がある』を 8 月 30 日に発刊しました。

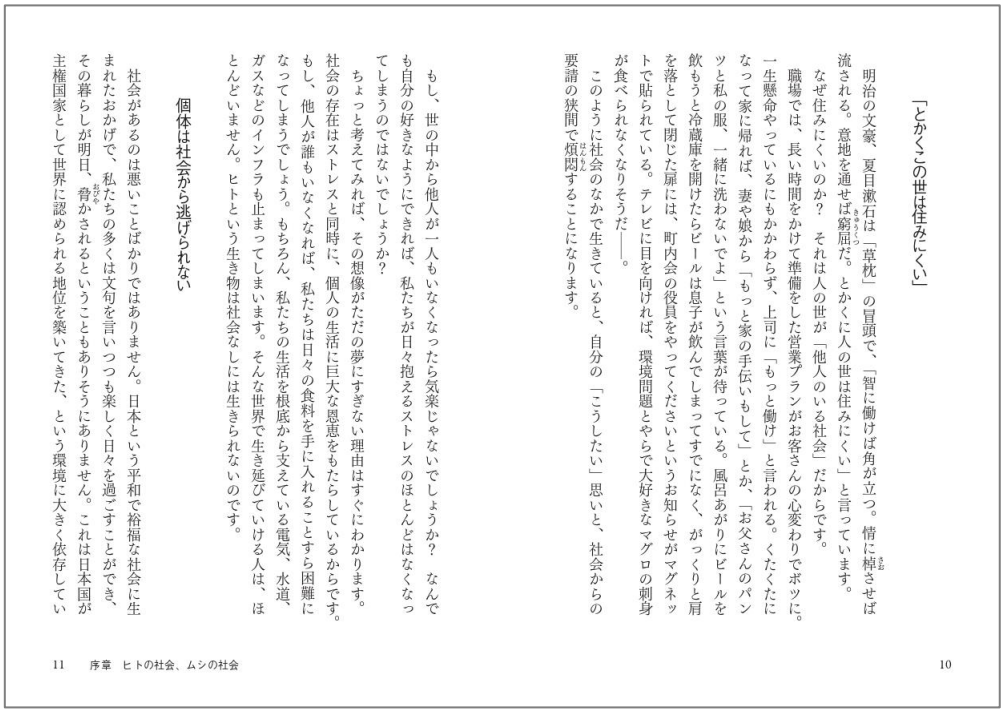
**ひろゆき氏（『１％の努力』著者）、推薦！**
**「“まだ俺が本気を出す時じゃない”という引きこもりが正しいことを証明した研究」**

**鎌田浩毅氏（解説より）**
**「生物社会の本質をわかりやすく解説した秀逸な啓発書。アリ社会が持つ精妙な組織を、きわめて誠実で地道な観察によって明らかにする。気が付くと最終章まで私は一気に読了した」**

アリの巣を観察すると、いつも働いているアリがいる一方でほとんど働かないアリもいる。働かないアリが存在するのはなぜなのか？　ムシの社会で行われる協力、裏切り、出し抜き、悲喜こもごも――。コロニーと呼ばれる集団をつくり階層社会を営む「真社会性生物」の驚きの生態を、進化生物学者がヒトの社会にたとえながらわかりやすく、深く、面白く語る。

「今、役に立つものだけに投資しろ、と言う声はよく聞かれますが、それは滅亡への一本道です。40億年を生き抜いてきた生物たちが、効率より存続を優先しているということが、無駄の重要性をなにより物語ります。無駄こそ人間の証なり。」（「著者あとがき」より）。

京都大学名誉教授・鎌田浩毅氏の解説を収録。
今の時代に改めて読みたい、ベストセラーの復刊。



「とかくこの世は住みにくい」

明治の文豪、夏目漱石は「草枕」の冒頭で、「智に働けば角が立つ。情に棹（さお）させば流される。意地を通せば窮屈（きゅうくつ）だ。とかくに人の世は住みにくい」と言っています。

なぜ住みにくいのか？　それは人の世が「他人のいる社会」だからです。

職場では、長い時間をかけて準備をした営業プランがお客さんの心変わりでボツに。一生懸命やっているにもかかわらず、上司に「もっと働け」と言われる。くたくたになって家に帰れば、妻や娘から「もっと家の手伝いもして」とか、「お父さんのパンツと私の服、一緒に洗わないでよ」という言葉が待っている。風呂あがりにビールを飲もうと冷蔵庫を開けたらビールは息子が飲んでしまってすでになく、がっくりと肩を落として閉じた扉には、町内会の役員をやってくださいというお知らせがマグネットで貼られている。テレビに目を向ければ、環境問題とやらで大好きなマグロの刺身が食べられなくなりそうだ――。

このように社会のなかで生きていると、自分の「こうしたい」思いと、社会からの要請の狭間で煩悶（はんもん）することになります。

もし、世の中から他人が一人もいなくなったら気楽じゃないでしょうか？　なんでも自分の好きなようにできれば、私たちが日々抱えるストレスのほとんどはなくなってしまうのではないでしょうか？

ちょっと考えてみれば、その想像がただの夢にすぎない理由はすぐにわかります。社会の存在はストレスと同時に、個人の生活に巨大な恩恵をもたらしているからです。もし、他人が誰もいなくなれば、私たちは日々の食料を手に入れることすら困難になってしまうでしょう。もちろん、私たちの生活を根底から支えている電気、水道、ガスなどのインフラも止まってしまいます。そんな世界で生き延びていける人は、ほとんどいません。ヒトという生き物は社会なしには生きられないのです。

個体は社会から逃げられない

社会があるのは悪いことばかりではありません。日本という平和で裕福な社会に生まれたおかげで、私たちの多くは文句を言いつつも楽しく日々を過ごすことができ、その暮らしが明日、脅（おびや）かされるということもありそうにありません。これは日本国が主権国家として世界に認められる地位を築いてきた、という環境に大きく依存してい

11　序章　ヒトの社会、ムシの社会　　10

【内容】

**序章　ヒトの社会、ムシの社会**

「とかくこの世はすみにくい」／個体は社会から逃げられない／厄介者扱いされるオス／齟齬が生み出すユニークさ／ムシの社会を覗いてみれば

**第１章　７割のアリは休んでる**

アリは本当に働き者なのか／ハチの８の字ダンス／働かないことの意味／なぜ上司がいなくてうまく回るのか／アリに「職人」はないない／お馬鹿さんがいたほうが成功する／兵隊アリは戦わない

**第２章　働かないアリはなぜ存在するのか**

よく働くアリ、働かないアリ／怠け者は仕事の量で変身する／「２：８の法則」は本当か／遺伝で決まる腰の軽さ／ハチやアリにも過労死が／みんなが疲れると社会はまわらない

**第３章　なんで他人のために働くの？**

子を生まない働きアリの謎／わが子より妹がかわいくなる４分の３仮説／弟はいらない／美しすぎる理論のワナ／ヒトの滅私奉公／生き残るのは群か？血縁か？

**第４章　自分がよければ**

社会が回ると裏切り者が出る／本当に働かない裏切りアリ／他人の力を利用しろ／究極の利他主義、クローン生殖／最初にやった仕事が好き

**第５章　「群れ」か「個」か、それが問題だ**

庭のネコの生物学的見分け方／なぜ群れるのか／なぜ群れないのか／不完全な群体を超えて

**終章　その進化はなんのため？**

食べ始めたとき、進化した／自然選択説の限界／神への長い道／説明できないという誠実さ／いつも永遠の夏じゃなく　ほか

【著者略歴】

長谷川英祐(はせがわ・えいすけ)

進化生物学者。北海道大学大学院農学研究院准教授。動物生態学研究室所属。1961 年生まれ。大学時代から社会性昆虫を研究。卒業後、民間企業に 5 年間勤務したのち、東京都立大学大学院で生態学を学ぶ。主な研究分野は社会性の進化や、集団を作る動物の行動など。特に働かないハタラキアリの研究は大きく注目を集めた。研究は何より面白いことがいちばんと断言する。趣味は映画鑑賞（年間 50～60 本)。主な著書に、本書のもとになった 20 万部超ベストセラー『働かないアリに意義がある』（メディアファクトリー新書)、『面白くて眠れなくなる生物学』(PHP エディターズ・グループ）などがある。

【書誌データ】

書名：働かないアリに意義がある

著者：長谷川英祐

発売日：2021 年８月 30 日

定価：935 円（本体 850 円＋税 10%）

判型：文庫判並製

https://www.yamakei.co.jp/products/2821049200.html

【山と溪谷社】　https://www.yamakei.co.jp/

1930 年創業。月刊誌『山と溪谷』を中心に、国内外で山岳・自然科学・アウトドア等の分野で出版活動を展開。さらに、自然、環境、ライフスタイル、健康の分野で多くの出版物を展開しています。

【インプレスグループ】　https://www.impressholdings.com/

株式会社インプレスホールディングス(本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証 1 部 9479)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「モバイルサービス」「学術・理工学」「旅・鉄道」を主要テーマに専門性の高いメディア＆サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

---

【本件に関するお問合せ先】

株式会社山と溪谷社　担当：綿

〒101-0051　東京都千代田区神田神保町 1-105 神保町三井ビルディング

TEL03-6744-1900　E-mail: info@yamakei.co.jp

https://www.yamakei.co.jp/